



学校連携共同
ワークショップ

おとなり アーティスト 2024

アートによる新生ふくしま交流事業「アートで広げる子どもの未来プロジェクト」



アートによる新生ふくしま交流事業「アートで広げる子どもの未来プロジェクト」



学校連携共同ワークショップとは、美術作家を講師として招き、各学校等で子どもたちを対象としたワークショップを開催するアートプログラムです。作家が学校に出向いて子どもたちと交流しながら、一緒に創作活動を楽しみます。

ワークショップは普段の授業のようにクラス単位で行う他に、学年や部活動、学校全体で活動することもでき、作家のユニークなプログラムを通して、いつもとは違う「創る喜び」を体験することができる内容になっています。

「おとなりアーティスト」には「文化を発信する人」が近隣地域で活躍していることを子どもたちや学校の先生に知ってもらい、子どもたちに作家との交流を通じて、アートが遠い世界のものではないということを体験的に感じて欲しいというねらいがあります。

今年度は、福島県在住の作家、佐藤忠博（彫刻家）、小原風子（絵本作家、画家）を講師に招き、県内 10 カ所の学校等でワークショップを開催しました。

ワークショップは創作活動が中心となりますが、子どもたちは作家が持参した作品を目の前にして、鑑賞も楽しみながら活動を行いました。

「木で自分の好きなものを表現しよう」

木っ端から丸太まで、木を使ったワークショップを行います。木っ端をグルーガンでくっつけて造形し、できた作品をグループで協働しながらモビールにする活動や、丸太などの大きな材料があれば木彫など、内容は時間や人数などの学校の実態に合わせて先生と相談しながら決めていきました。

ワークショップでは、佐藤さんが作った木彫りの大きな作品が並び、子どもたちはその作品の迫力にまず圧倒されます。佐藤さんの作品は触れて鑑賞することもできます。会場の真ん中には大小さまざまな木っ端が山盛りに積み、子どもたちが足を踏み入れた瞬間からワクワクする空間の中で活動は始まりました。

【開催校】

二本松市立安達中学校

いわき市立磐崎小学校

福島県立会津支援学校 竹田校

郡山市立御館中学校

会津若松市立第二中学校



佐藤 忠博 彫刻家

1970年 相馬市出身。1998年宇津孝志氏に入門。

2013年 入善町下山芸術の森発電所美術館にて個展「佐藤忠博-silent」。

2017年 松村外次郎記念庄川美術館にて個展「モクチャーシンドローム」。

2017年 富山県美術館にて子ども向けTADワークショップを実施。

近年富山県より福島県相馬市に拠点を移し、相馬市を中心に木彫による作品制作、子ども向けの創作ワークショップの活動を行っている。



事前に6人で班をつくり、班ごとに「海の生き物」「野菜」「鳥」などのテーマを決め、テーマに沿って自分が作りたいものを考えてスケッチを描くなどの準備をしていました。ワークショップはクラスごとに開催し、班でひとつのモビルづくりに挑戦です。山盛りの木っ端の中から好きな材料を選び、木っ端をグルーガンでくっつけて、自分の作品を作ります。細かく繊細な作品から、重量級のインパクトがある作品までそれぞれ工夫して作っていきます。班全員の作品ができたならテーマに合わせて吊るす位置や順番を決め、重さのバランスを調整しながらテグスで吊っていきます。テグスの長さや位置などを考えてバランスをとる作業は複数人で協力しないとできず、6人分の作品をモビルにするのは大変な作業です。しかしその分、全員の作品がひとつのモビルになった瞬間には達成感と笑顔に満ちました。



参加者の感想 //

- 大きな木や小さな木などたくさんあって、見ただけで楽しかった。同じ形がほとんどなかったので「これ使えそうだな」とか「この形いいな」と思うのがとても多くて面白かったです。
- 同じ班の友だちが、四角い木と木を組み合わせて丸くしていた。とてもきれいな丸だったので印象に残った。
- 難しいけれどああしよう、こうしようと考えながら作っていくのは充実していて楽しい時間だった。
- グループのみんなで協力してバランスをとれるように吊り下げる作業がとても楽しかった。吊り下がった時はとても感動した！



教師の感想 //

- 本物を知る、ということ、作家さんやその作品に実際に触れ、ダイナミックな制作活動や共同制作の楽しさを味わうことができたこと、大変貴重な機会となりました。学校の授業の中だけではできない経験となりました。
- まずは美術室の中に山と積まれた材料を目にして、生徒達もとても驚き、ワクワクしていました。佐藤さんのお人柄もあり、すぐにリラックスして楽しく制作活動に熱中していた生徒達でした。最後に大きなモビルが完成した時は自然に拍手が出て、「すごい達成感！」という感想を書いていた生徒が多かったです。





体育館に入ると山盛りのたくさんの木っ端に子どもたちは目を輝かせます。ワークショップでは木っ端の山の中から好きな材料を選び、選んだ木っ端をグルーガンでくっつけて、自分の好きなものを作っていきます。

作りたいものに合わせて材料を選ぶ子や、使いたい材料を集めてから形を考える子など選び方もそれぞれ。作るものもネコやキリンやカブトムシなどの生き物を作る子や、おみこしやアイス、机や家など子どもによって様々。作り方も、細かい材料をていねいに重ねてくっつけてひとつの作品をじっくりと作る子や、大きな材料を組み合わせて大胆に制作する子など、時には友達と協力しながらそれぞれに造形を楽しみました。



教師の感想

- 細かい木をつけて作品を作る活動は準備が大変で学校ではなかなか取り組めないため、とても貴重な体験ができました。
- 物事を選択肢がない、自由を与えると、逆になかなか手を動かさず考え込んでしまう子どももいるかなと不安だったが、いざやってみると人や作品との関わりを通して、発見や創造を形にできる特別で貴重な機会となっていると感じた。
- 普段会話が苦手な児童も「〇〇作りたかったけど△△みたいに見える。」と試行錯誤の様子を言語化して伝えられるようになるなど発見・成長があった。時間ギリギリまで自分の作品と向き合い、楽しむ姿に、図工科を通して身につけさせたい力を見ました。



参加者の感想

- 思うようにできなかったとき、こうしたらいいよと言ってくれてうれしかった。
- 作るときお手本があって作りやすかったです。作るコツがあってよかったです。佐藤さんの作品が触れてよかったです。
- 僕は初めて木工作をしたので楽しかったです。理由は、自由に考えたものを大きい木に小さい木をいろいろとくっつけて、自分だけのものを作るのが楽しかったからです。また今度やってみたいです。
- 木がいろいろなものに変身できるなんて知らなかったからいろいろ知れてよかったし、他の人の作品を見て楽しかったです。
- 僕の作品はクワガタです。難しかったことはクワガタの歯です。細かくてつけるのが難しかったです。楽しかったことは足です。バランスが全然取れなかったけどなぜかだんだん楽しくなりました。作るのに時間がなくて難しかったけどペアの人と一緒に協力していい作品ができて、とてもうれしくて楽しかったです。

目の前には1人に1個、大きな木の球体があります。これは惑星です。その惑星には何があったら楽しいかななどを考えて、自分だけの惑星を作る活動をしました。

木っ端で好きなものを作って惑星にくっつけてもよく、直接山や川を彫ってもいいとあって、大きな球体を前にどんな惑星にするか考えます。ウサギが好きな生徒は木っ端でうさぎをたくさん作って惑星にくっつけて、ウサギの穴や樹木なども作って惑星にくっつけていきます。はじめは何を作ろうか考えていた生徒も、気に入った材料を惑星に当ててみて、これは橋かな？道かな？など見立てができるとどんどんくっつけていきました。休み時間になっても手が止まらず、作りつづけます。ワークショップの最後に、できた作品を発表し鑑賞しました。



\\ 参加者の感想 //

- 講師の先生の作品がすごかった。
- ありえない世界をイメージして作るのは難しかった。
- かわいいウサギを作ることができた。家で飼っているウサギをイメージして作った。

\\ 教師の感想 //

- 制作工程がシンプルで、基本的に生徒だけで制作することができました。なにをどう表現するのかを考えながら、自分だけの作品ができたことが良かったと思います。
- 講師の方の作品を鑑賞したり、触れたりする機会をいただきありがとうございました。



事前学習では、図書室の先生とも協力し、班ごとにモビールの題材にする絵本を選びました。それぞれが何を作るかを班で話し合っけてスケッチしました。

ワークショップ当日は、スケッチをもとに絵本の登場人物などを木っ端で造形していきます。登場人物の大きさや形などを班で相談し、協力しながら、絵本という平面の世界を立体に表していきます。限られた時間の中で立体にすることに難しさを感じながらも、工夫して材料を組み合わせせて作り上げていきます。登場人物ができれば、絵本のストーリーをもとに配置を決め、班ごとにテグスで吊ってひとつのモビールにしていきます。バランスをとる作業はなかなか難しく、協力して吊っていきます。完成したモビールひとつひとつに絵本の世界と作りあげた生徒たちの物語が生まれました。



参加者の感想 //

- 本の登場人物に近づけられるように、木の大きさや、形、つける向きなどを考えながら作ることが楽しかったです。最後バランスをとるときやヒモを結ぶところが難しかったけど、上手にバランスがとれた時の達成感が印象に残っています。
- 面白かったことは、魚を作ったことです。はじめはどう作るのかわからなかったけど、かたまりを作ってから形を作っていくことがわかりました。パズルをしているみたいだと思いました。
- 初めてモビールづくりをして面白かったことは、様々な形の木材からひとつのものができたことです。私の班では、海の生き物をテーマに制作しました。海の中で生き生きとしているように見せるためにはどうすればよいかを考え、木材をつけたり外したりしてひとつの物語ができました。また、みんなで力を合わせて制作したことが印象に残りました。



教師の感想 //

- 事前授業、ワークショップ当日、美術館での展示鑑賞と、すべてを通して贅沢な体験だった。木というなじみの素材から木っ端を組み合わせせて立体を作るという活動が新鮮で楽しかったようだ。
- 宝物探しの様に多種多様な木材から、自分の理想のピースを求めて一生懸命に材料探しをする姿が良かった。(普段はこんな豊富な木材手に入らなので…) それを組み合わせせて、試行錯誤しながら少しずつ立体物を作っていくことを心から楽しんでた。共同制作を望んでいたのので、最後にモビールとなって完成し、大満足の様子だった。



事前に何を作りたいかを考えて、資料を集めスケッチをしてから当日を迎えました。当日は、少し大きめの作品をじっくりと作れるように、作りたいものに合わせて針金で骨格を作るところから始めます。骨格ができたら、大きな形から木っ端をグルーガンでくっつけて肉付けしていき、大きな形ができたら細かいパーツを作っていきます。昆虫や動物などの生き物を作る生徒が多く、細かい複雑な形も小さな木片を組み合わせて工夫して造形していきます。作りたいものの表したい動きをどうやって作るか苦戦する様子も見られ、事前に用意した写真やスケッチをもとに、体の動きや足の向きなど細かなところを何度も作り直したりしながら、動きや躍動感、立体感を表していきました。ワークショップ終了後に、部活動の時間を用いて作品の続きや台座を制作し、完成させました。



\\ 参加者の感想 //

- いろいろな木片からちょうどいい形を見つけて、いろいろな形を作るのが楽しかった。色とかも気にしながらやると、目とかの表現もできて興味深いと思う。材料の大体が四角とかだから、丸を表現するのが難しかった。でも楽しかった。
- 木を使ってものを作る楽しみが強まった。いろんな形の木があって作れる幅が広いことが印象に残りました。頭を使って動物を作ると立体感を想像しながらだから面白かったです。
- 作ってみてわかったことは自分は立体に作るのが苦手ということです。最初はどんな感じにやればいいのか全然わかりませんでした。いざやってみても納得できないことがありました。でもやってみるとだんだん上手くできるようになってうれしかったです。

\\ 教師の感想 //

- アーティストの方の作品を見た時から、子どもたちのテンションが上がっていました。素敵な鑑賞の機会をありがとうございました。
- 木ならではの良い香り、動かすたびに聞こえるやさしい音、あたたかな触り心地も、とても良い刺激だったと思います。改めて自然の材料の魅力を感じました。
- いざ制作が始まると、かなり苦心して取ったりつけたりを繰り返す姿が見られました。自分が作りたい形、めざす形に近づこうとアーティストの方々にアドバイスをいただきながら粘る姿が印象的でした。
- (ワークショップ終了後)美術室に行くと、日々成長していく作品を目にすることができました。お互いに影響し合いながら制作したあしあとを見ることができました。(ふだんは部員同士あまりコミュニケーションをとらないので余計にうれしかったです。)

メッセージ

佐藤 忠博

木片の山の中から1つめの木片と出会う

2つめの木片の接着をきっかけに、創作の連鎖で次々と接着された木片が作品に生まれかわっていく。もちろん、ペースやタイミングはそれぞれ違う。

さまざまな作品たちが、いろいろな思いを込めて校舎を飛び出し美術館に集まる。それぞれの作品が響きあう素晴らしい空間。

もしこの先、新しい事に挑戦する事になって、立ち止まってしまった時は、ワークショップで1つめの木片を手にとった時の事を思い出してください。

何とかあります。「大丈夫！」

作品を完成させて、素晴らしい展示ができたのだから。

いつかどこかで出会える日を楽しみにしています。見かけたら気軽に声をかけてね！

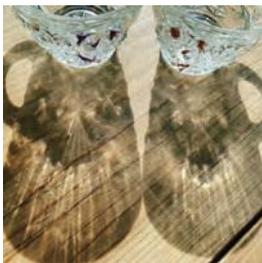


小原 風子ワークショップ

「イマジネーション遊び ～じーっと覗いて みてみよう～」

空の雲や木のふし穴の模様を眺めていると何か不思議な生き物に見えてきたり、光と影のゆらぎから、面白い形やモンスターが浮かんできたり！ 日常の中のふとした景色に目を向けてイマジネーションを膨らませてみよう！ 子どもたちの年齢など学校の実態に合わせ、身近なものを取り入れたワークショップを学校ごとに提案して実施しました。

「みんなに会うのを楽しみに、南相馬の海の近くからやってきました。」小原さんのやわらかな声かけに、子どもたちはひきこまれていきます。会場には小原さんが描いた大きな絵が展示され、絵を前にして「何が見えるかな？」と聞かれると、子どもたちは次々に答えていきます。場があたたまってきたところで活動が始まります。葉っぱや石など、身近なものを素材にした、シンプルな技法の活動を通して子どもたちの創造力を引き出していきました。



【開催校】

小野町立小野小学校

北塩原村立さくら幼稚園

矢吹町立矢吹中学校

郡山市立行徳小学校

福島市教育委員会 教育研修課
ふれあい教室



小原 風子 画家・絵本作家

1971年福島市生まれ、南相馬市在住。東京藝術大学で日本画を学び帰郷。学童保育やチルドレンズミュージアムなど、子どもたちと関わる仕事を経て、現在も子どもたちや地域の方々とのワークショップ活動을 続けながら、海のそばで絵や絵本の制作をしている。

絵本に『ももいろのアルパカ』（ポエムピース刊）、『ぼくと2まい葉』（ポエムピース刊）、『こわいきもちとちよつとのゆうき』（みらいパブリッシング刊）などがある。



当日の朝に子どもたちは学校の裏の塩竈神社で葉っぱを採集してきました。この葉っぱを使っての活動です。下敷きの上に葉っぱを置き、その上に和紙をのせて蜜ろうクレヨンでこすっていくと、葉っぱの模様がきれいな色で浮き出てきます。クレヨンの色を重ねていくと、どんどん色が変わります。できた葉っぱに顔を描いてまわりを切り取ると、葉っぱのモンスターのできあがり。自分が採ってきた葉っぱを使ってモンスターを作っていきます。モンスターがたくさんできたら、大きなネットにモンスターをテープで貼っていきます。どんどんモンスターを貼ったところで、ネットに支柱を入れて立ち上げると…葉っぱの森が出来ました。森がにぎやかになるように、さらにたくさんのモンスターを作って貼ります。最後に森の中に全員で入って寝転がり、にぎやか森をみんなで鑑賞しました。



参加者の感想 //

- 葉っぱを下にしてクレヨンでしゅっしゅってやるだけで、葉っぱの模様がきれいにうつっていて、魔法みたいで、とても楽しかったです。
- 楽しくてみんなが作っているものがかわいかったり少し怖かったりかっこよかったりしてみんな上手だなと思いました。それと作る前に見せてもらった(小原さんの)絵も人の形に見えたり草が髪の毛に見えたりその中にいろいろな生き物が隠れてすごかったなど感じながら葉っぱのモンスターを作っていました。
- 葉っぱで、こんなにきれいな模様ができて、モンスターが作れることが初めて知ったので、びっくりしました。葉っぱが生きてるみたいで面白かったです。この葉っぱモンスターたちと友達になったように感じました。
- 最初は全然うまくならなくて破けたりしましたが、あとからはすごくクレヨンが濃くなってきてやぶれるのもなくなってきて、ネットに貼ったらきれいになってきて楽しいなーと思ってきて14枚くらい作れて、すごく楽しかったです。
- (葉っぱの森の)下に入ったら心地よかったです。寝転がって上を見たらきれいだったのもうちょっと作りたいなーと思いました。

教師の感想 //

- 本ワークショップでの体験は、自分の手で作り上げる活動への集中、つまり、「リアリティあるものへの没頭」をめいっぱい味わわせることができました。また、「みんなでひとつの『森』をつくる」体験も新鮮でした。図工の作品づくりも基本的には個別。それに、楽しんでいるゲームやメディアも基本それぞれ。でも、「それぞれ」が集まって、「ひとつ」をつくっていく本ワークショップの制作プロセス自体が大きな学びになりました。
- どれも同じ葉っぱなのに、自分が採ってきた葉は「これだ!」と分かっていました。「自分が見つけたもの」は格別なのですね。さらに、どれひとつとして同じ「葉の妖精」が無いことにも驚きました。シンプルな画材や方法であればあるほど、それで作り出させる個性は多様なのだと。「うまく」とか、「上手に」という意識から離れて、作品づくりに没頭し、作ることそのものを楽しむ姿にうれしくなりました。制作に使った葉っぱを「捨てる」とは言わずに、「自然に返す」と言って、下校の時にみんなで塩竈神社の山にお返しにいきました。この日ぜんぶが「ワークショップ」の1日のようでした。



幼稚園で掘ったサツマイモや、ゴーヤーやオクラ、ジャガイモやカボチャなどのたくさんの野菜を切った断面に、絵の具を塗ってスタンプにし、オレンジ色の大きな布にみんなでスタンプを押して、野菜の原っぱにしています。ローラーで線を描き、原っぱに風を吹かせます。

さらに手や足に絵の具を塗って手形の森や足あとの森をつくり、花や葉っぱをクレヨンや絵の具で描いて、にぎやかにしていきます。

紙や布に生き物の絵を描いて切り取り、大きな布に貼って森の仲間を増やしていきます。野菜をきっかけにして、スタンプや手形足形、直接描いたり切ったり貼ったりと、どんどん子どもたちの創造力が広がっていききました。



教師の感想

- 今回ここまで汚しているの!?とってしまうほど大胆な体験、ブロッコリーやキャベツまでスタンプ!!園児も職員も思いっきり楽しむことができました。
- いつも泣いてばかりいる子が夢中になって体を絵の具だらけにして楽しんでいました。「〇〇なんだよね!」「楽しい!!もっとしたい」との声。仕上がった作品を見て、「これ私が作ったの」とうれしそうに教えてくれました。
- 普段から砂や水に触れて遊んでいますが、それとはまた違って色鮮やかな絵の具に魅了されて、「ここまで楽しめるんだな」と新たな発見がありました。
- 初めて見る野菜や自分たちが収穫した野菜を用いてスタンプをしたり、様々な素材を組み合わせる表現したりし、ひとりひとりがのびのびと活動していました。



参加者の感想

- お野菜に絵の具をペタペタつけて楽しかった。
- 風子さんの絵がすてきだった。
- (おもしろかったことや印象に残ったことは) (小原先生と一緒に(ローラーを)コロコロしたこと。
- 足に絵の具を塗って、くすぐったかったけど面白かった。
- (おもしろかったことや印象に残ったことは) 自分の手に自分で絵の具をペタペタしたこと。
- 布に動物の絵を描いて貼ったことが楽しかった。
- 大根でスタンプをしたら丸くなって面白かった。
- 白、青の絵の具を使って大きな木を描いたのが楽しかった。





はじめに校内を散策して葉っぱの採集にいきます。普段慣れ親しんでいる学校の敷地内ですが、みんなで歩いてみると「こんなきれいなところあったんだ。」など、新鮮な視点で見ることができます。カエルや虫、花やキノコなどの発見を楽しみながらお気に入りの葉っぱを集めていきます。美術室に戻り、たくさんの海の石の中から自分が使いたい石を選びます。石にダーマトグラフで色を塗っていくと何かに見えてきます。次に拾ってきた葉っぱに和紙のせてクレヨンで上からこすって模様を出します。いくつか練習用紙に試した後、本番用の上川崎和紙にこすり出しをして、石がいる世界を表していきます。偶然できた表現を楽しみながら、想像力をはたらかせ、色を塗った石を、その石がいる世界を表現した和紙の上に置いて作品にしました。最後にどんな世界を表したのか考えて題名をつけました。



参加者の感想

- みんなでいろいろな葉っぱを集めたことが楽しかったです。あまり自然に触れないので仲のいい友達と自然に触れられたので良かったです。
- 石から何も見えないときは困ったけどきれいにかけて良かったです。みんなで相談しながら制作できてよかったです。見たことないクレヨンでびっくりしました。
- 今まで立ち入ったことのないところで今まで見たことのない自然に出会うことができたことや、フロッタージュ（こすり出し）を通して自然と触れ合うことができたということがとても面白くて楽しかったです。海で拾ってきてくださった石たちと、自分で作ったフロッタージュ、このワークショップがなければ一緒になることのなかったふたつの自然を自分の手でひとつの作品に仕上げることが私にとって貴重な体験でした。
- 面白かったのは、自分の好みの葉っぱを使うところです。個人個人で違う葉っぱ、好きな色でこすり出しで、まったく別の作品が生まれるのがすごかったです。しかも石に絵を描いて作品の一部にするというのも面白くて、特に印象に残りました。



教師の感想

○ワークショップ前日から楽しみにしているのが伝わってきて、当日一気に緊張…。風子さんの絵を見て、すてき!と思った様で、集中が増していたと思います。制作には、意欲的に取り組み、楽しんでいました。思い思いにイメージを膨らませて作品作りをしていたのが印象的でした。中にはどうしていいかわからない様子の子もいて子どもたちの実態等深めることができました。

子どもたちの目の前にはたくさんの石が並んでいます。たくさんの石の中から自分が好きな石を2つ選び活動はスタートです。カラフルな上川崎和紙、三春和紙などの中から好きな色を選んで小さくちぎり、こんにやく糊をつけて石に貼ります。指でいねいになでながら和紙をたくさん重ねて貼っていきます。カラフルな和紙を貼り終わったら、白い和紙に顔を描いて一番上に貼るとコロコロさんの出来上がり。

今度はコロコロさんの居場所作りです。大きな紙に蜜ろうクレヨンやマスキングテープで、島や家や森に見立てた絵を描き、絵をつなげていきます。できた居場所の上に、みんなでコロコロさんを置いて、完成！



参加者の感想

- ぼくは、小さなころから小石などを集めることが好きでした。丸い石や面白い形の石など様々な石などを集めていました。そして29日、いろいろな形の石を見て、すぐにいろいろなことが思い浮かびました。小さい石は小さなだるまに見えました。大きな石は起きあがりこぼしのような形でした。僕は石を集めるだけでなく、石に飾りつけることは、思う以上に楽しかったです。すごくきれいでできて楽しかったです。
- 丸石や四角の石がたくさんあって選ぶのが大変でした。またやりたいです。
- 最初にこんにやく糊を塗って、和紙を貼ったら汚い色になったけど、乾いたら色が戻るの面白かったです。
- 私は印象に残ったことが3つあります。1つ目は石の触り心地です。とてもなめらかでやわらかいのがすごいと思いました。2つ目は石の形がたくさんあることです。三角、四角、丸、とても大きな石もありました。3つ目は石に和紙をつけることです。1枚1枚和紙をつけていくと、どんどん色が合わさって違う色になったのがびっくりしました。またやりたいと思いました。

教師の感想

- 和紙がきれいに石に貼れたり、上手に顔を描けたりしたときに喜んだ表情を見せたことが印象に残っています。また、完成後、離さずコロコロさんを持っていたり、コロコロさんの街を友達と協力して作っている姿が印象的です。
- 普段落ち着きがない(集中できない)子どもたちが、図工があまり好きでない(自分で苦手と言ってる)子どもたちが、夢中になって、取り組んでいた姿に驚きました。また、風子先生の絵の作品をじっと見つめているときの表情など、とても生き生きとして楽しんでいる姿が見られました。そして、完成したコロコロさんの居場所を作成しているときも、たくさんのアイデアやお話、物語が生まれ、止めなければずっと描き続けるのだらうと思いました。

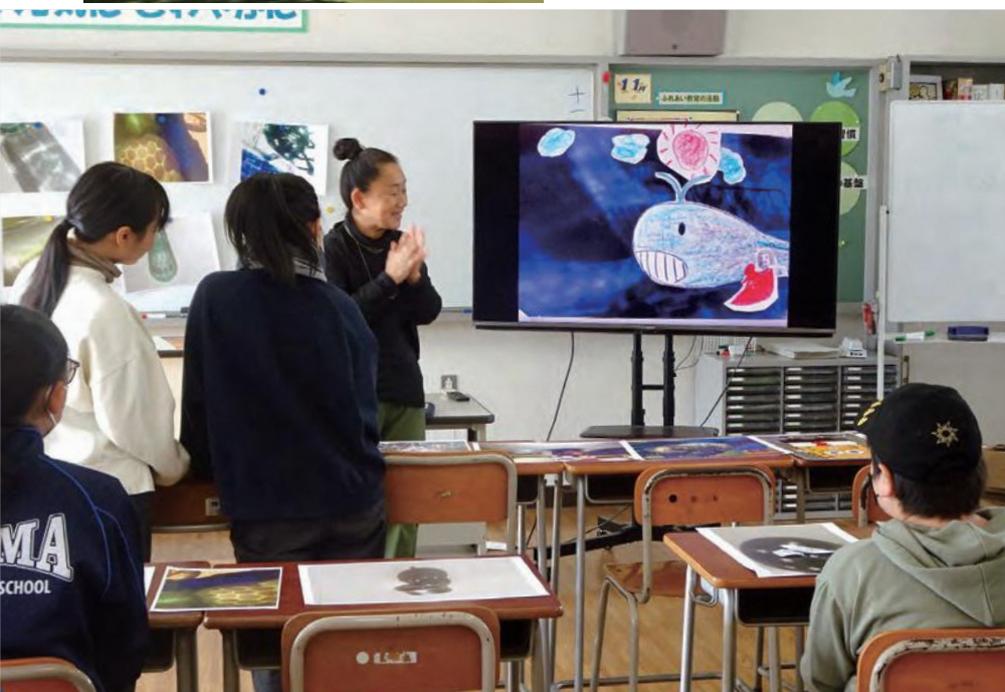




1日目は美術館の庭園を散策しながら、自分が面白いと思うものや風景の写真を撮る活動です。はじめに小原さんが写真に絵を描き加えた作品を鑑賞し、活動のイメージを膨らませた上で写真を撮りに行きました。撮った写真の中からお気に入りを選び、生き物など何かに見えてこないか考えます。見えてきたら絵を描き入れて、作品を作りました。

2日目はピンなどに光を当てて光と影の写真を撮る活動です。ピンの置き方や光の当て方を工夫して写真を撮ると、見たこともないきれいな写真の作品ができました。

3日目は、紙に人や生き物などの絵を描いて切り取り、登場人物を作ります。前回撮影した光の写真の上に登場人物を置いて写真を撮ります。少しずつ登場人物を動かして写真を撮ることでコマ撮リアニメを作りました。



参加者の感想 //

- 絵を描くのは得意ではないけど、何も考えずなんとなく描いてみると形になってそれが楽しかったです。
- 初めは特に何も見えてこず、頭を抱えていたが、最後には先生やほかの人の作品を見て納得のいく作品が作れた。
- 光の写真や自然からいろいろなものを見つけるのが楽しかったです。こうしたらステキだよ!などとアドバイスをもらえてよい作品ができました。
- 形や何かにとらえるだけでなく、そこに人や物がひとつでもあったら良いなと描き足してみたことが楽しかった。

教師の感想 //

- 多くを話さない子ども、実は豊かな感性を持ち、ワークショップの活動を通して、生き生きと表現活動している姿を見てとてもうれしくなりました。子どもの姿を見て、思わずこちらも写真でイメージ遊びをしてしまいました。ひとりひとりが自分のお気に入りを見つけるために所狭しと動き、熱心に写真を撮りさらにそこからイメージを広げていることは「すごい!」の一言です。写真を描きこんだり、動かしたりと、とても生き生きと制作に取り組みました。
- 自分をなかなかうまく表現できない子どもたちも生き生きと取り組むことができました。子どもたちはいろいろな力があるということを再認識することができました。



「ハートのなる木だよ」
絵の具だらけの手で
筆をぐんぐん動かしながら
ちいさな男の子が教えてくれた

ワークショップを行うたび
みんなのイマジネーションの扉がふわっと開く瞬間
隣りにいて ドキドキ きゅーんとしてしまう

いつもなにげなく見過ごしてしまうような
日常の景色のなかに
面白いワクワクや
心の中にしまっている 自分の思いとつながる何かが
隠れていたりするのかもしれない

あれ？ なにかな？ と気になったものを
じーっと見つめていると
そこに隠れている不思議な世界の住人（はてなさん）が
こっちだよ～と手招きしてくれる瞬間がある

みんなは きっと その瞬間を見つけて はてなさん と出会う大天才なんだなぁと思う

なんだろう？ って気になったら
その はてなさん を
追いかけてみる
追いかけるんじゃなくて
そーっと側にいて 友だちになるような感じなのかもしれない

わたしもみんなとワークショップをしていたら
ふっと現れる はてなさん と
もっともっと友だちになりたいなぁと思ったよ

どうもありがとう



学校連携共同ワークショップ 参加校作品展 おとなりアーティスト2024

会期：2025年1月7日(火)～1月19日(日)

会場：福島県立美術館 企画展示室B

開館時間：9：30～17：00 最終入館は16：30まで

入場無料



会場アンケート

いろんな個性豊かな作品があつて面白かつたし、いつもの美術作品とは違う新しい展示でまたやってほしいと思いました。

(国見町・14歳)

とっても面白かつた。木のはぎれが、葉っぱが、石が、写真が、ここまで個性的なアートに変化するのが楽しかつた。

(国見町・50歳)

木っ端のモビールも、木の葉を使った連続模様もこの世に2つとない1点もので素晴らしいと思いました。

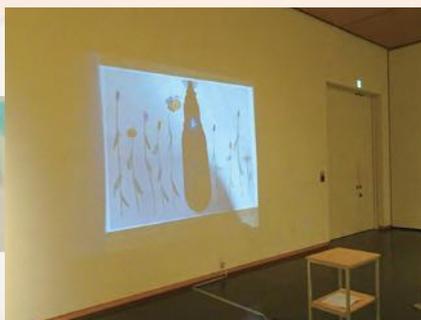
(郡山市・60歳)

展示の感想や意見など

子どもたちだからこそ、感じ取ることのできる形や色が各作品にあふれていて新鮮だつた。また懐かしく感じた。量的に難しいかもしれないが、各作品の解説を子どもたちの言葉で聞いてみたかつた。(福島市・22歳)

育ち盛りの子どものたちのアート教育の推進、芽を出させてくれるような取り組み、自分も子どもの時やってみたかつたなと思わせてくれるほど、うらやましいです。

(名古屋市・28歳)



通常の授業ではできないことで、刺激になると思う。感性を高めていくのにとっても良いと思う。

(伊達市・41歳)

芸術・文化を子どもたちに体験させる上で現役アーティストに直接指導いただくことは素晴らしいと思います。

(いわき市・55歳)

非常に良い取り組みだと思いません。学校に限定せず、地域の親子向けのワークショップもあればいいと感じました。

(福島市・31歳)

学校連携共同ワークショップについて

子どもにとっても普段の授業とはまた一歩違うところにあるワークショップという活動は良い刺激になると思います。(また普段接する親や教師という大人以外の「アーティスト」という大人と出会うことも)

(東京都・20歳)

こうして面白い展示を見ることができて楽しかつたし、芸術に関わつた子どもたちにもよいのでは。

(国見町・41歳)



アートによる新生ふくしま交流事業

芸術活動を通して被災地の地域コミュニティの支援や心の復興を図る「アートで広げるみんなの元気プロジェクト」及び、子ども達に学校では体験できない創作の機会を提供する「アートで広げる子どもの未来プロジェクト」を実施しています。

アートで広げる子どもの未来プロジェクト

福島の未来を担う子ども達に、将来「新生ふくしま」を推進する人材として活躍してもらうため、多彩なアートプログラムを体験できるワークショップを実施することで、心豊かな成長を支援します。

学校連携共同ワークショップ おとなりアーティスト 2024

実施校一覧

佐藤忠博ワークショップ

学校名	参加形態	実施日	人数
二本松市立安達中学校	1年生	9月2日(月)、 3日(火)、4日(水)	85名
いわき市立磐崎小学校	3年生	9月10日(火)	94名
福島県立会津支援学校 竹田校	中学部1・3年生	9月24日(火)	2名
郡山市立御館中学校	1・2・3年生	11月11日(月)	35名
会津若松市立第二中学校	美術部	11月16日(土)	15名

小原風子ワークショップ

学校名	参加形態	実施日	人数
小野町立小野小学校	3年生	10月17日(木)	52名
北塩原村立さくら幼稚園	年少・年中・年長	10月22日(火)	23名
矢吹町立矢吹中学校	美術部	10月26日(土)	16名
郡山市立行徳小学校	3年生	10月29日(火)	54名
福島市教育委員会 教育研修課 ふれあい教室	小学生～中学生	10月31日(木)、 11月1日(金)、7日(木)	のべ 29名

実施校合計 10 校、参加者合計 405 名。

アートによる新生ふくしま交流事業 「アートで広げる子どもの未来プロジェクト」

学校連携共同ワークショップ おとなりアーティスト 2024

発行 2025年3月

制作・編集 福島県立美術館、認定特定非営利活動法人ドリームサポート福島

写真 福島県立美術館(齋藤 恵、白木 ゆう美、伊澤 文彦、山口 菜月)、株式会社フレグ

デザイン 株式会社C I A

主催 福島県

事業受託者 認定特定非営利活動法人ドリームサポート福島

冊子及び事業への問い合わせ先

認定特定非営利活動法人ドリームサポート福島

福島県福島市三河北町 2-8Coco Mezon 1階 B 室

TEL・FAX 024-563-1955 E-mail info@f-jdi.com



OTONARI ARTIST 2024

この事業は、国内外からお寄せいただいた寄付金をもとに造成された「福島県東日本大震災子ども支援基金」により実施しています。

